

DI 調査結果（令和6年10月-12月期）

一般社団法人石川県鉄工機電協会

概況総括：『景況感は改善しているものの依然としてマイナス圏であり停滞が続いている。
来期についても先行きの見通しが立たず不安感がある』

【調査概要】

1. 今期(令和6年10月-12月期)の業況調査DI12項目では、「受注単価販売価格」など3項目がプラス、「売上高」など9項目がマイナスとなり、7項目が悪化している。
2. 現在の経営状況を示す「売上高」から「生産設備」までの9項目では、
 - (1) 景況感を端的に表す「売上高」は、▲6.3(前回▲17.4)と改善した。また高騰が続いている「原材料価格」も▲39.9(前回▲47.8)と改善し、「収益状況」も▲8.5(前回▲19.0)と改善しており、価格転嫁が進んでいると思われるものの、依然としてマイナス圏にあり、停滞感が続き厳しい状況が窺える。
 - (2) 現場の繁忙さを表す指標では、「操業率」▲10.5(前回▲7.6)、「受注残」3.4(前回10.1)、「生産設備」▲1.9(前回▲1.7)と、全項目が悪化となり、景気の減速傾向が強くなってきている。
3. 来期については、「来期受注」▲20.0(前回2.7)と大きく減少した。それに伴い「来期採算」▲16.4(前回▲4.3)、「来期資金繰」▲9.9(前回▲3.9)と減少しており、先行きについては見通しがたっていない。
4. 「企業経営上の悩み」については、「受注不安定」が38.7(前回31.5)と増加しており、引き続きトップとなった。「人材不足」も32.7(前回29.9)と増加しており、自動化や省人化の取組みが急がれる。
5. 景況感は改善しているものの海外経済減速等の影響により停滞が続いている。また、依然として原材料、エネルギー関連価格の高騰が続いており、さらには人件費のコスト高など懸念材料が多い状態にある。来期についても、長引くロシア・ウクライナ問題とともに、欧米や中国経済の動向が不透明なことから、先行きの見通しが立たず更に減少する事が予想され不安感がある。

